

# 知識探訪

多民族社会の横顔を読む  
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

## コロナ禍が照らし出した国家英雄

篠崎香織 (北九州市立大学外国語学部教授)

2020年3月半ば以降、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が起こったマレーシアは、希望連盟(PH)政権の崩壊と選挙を経ない政権交代、政府の不在という政治的な危機に直面していた。新たに就任した保健大臣は「お湯を飲めば感染を予防できる」と発言し、マレーシアは未知のウイルスに立ち向かえるのだろうか、とマレーシアの人たちを大いに不安に陥れた。

その不安からマレーシアの人たちを救い、国家英雄と称されるようになったのが、保健省のノル・ヒシャム・アブドゥラ保健局長である。1963年に生まれ、マレーシア国民大学で医学博士を取得し、1988年に医務官となり、プトラジャヤ病院などで内分泌外科の専門医として勤務したのちに、保健局長補佐を経て、2013年に現職に就いた。

ノル・ヒシャムは、毎日夕刻に会見を開くとともに会員制交流サイト(SNS)やウェブを通じて情報を迅速・的確に発信し、データと科学的根拠に基づいて穏やかに冷静に分かりやすく説明を行ってきた。質問をいくらかでも受け付け、防疫の最前線に立つ人たちへの配慮を常に忘れず、感謝の手紙を送ってきた少女に返信するなど、誠実さを示すエピソードも数多く報じられてきた。中国国営の国際英語放送網がウェブサイトで「真実を語り人気を誇る世界のトップ医師」3人のうちの1人としてノル・ヒシャムを紹介すると、そのニュースにマレーシア中が沸いた。

ノル・ヒシャムは出自においても注目された。華人の両親をもつが、貧しさゆえにマレー人のイスラム教宗教教師に引き取られたとの情報がSNSを通じて広がった。これに対するノル・ヒシャムの反応もまた話題となった。

防疫の最前線にいる人たちに感謝を伝える『Respect 1000000』という楽曲が制作され、ジェリル・リーがこれを歌った。制作プロデューサーからSNSを通じてこの楽曲を送られたノル・ヒシャムは、SNS上で楽曲への感謝を伝えるとともに、「歌手を知っている、ジェリル・リーだね、私と同じように養子だった」と投稿し、養子であったことを自ら語った。ジェリル・リ

ーの生みの親は非華人であるが、生後すぐに華人の養父母に引き取られた。英語、マレー語、華語を操り、圧倒的な表現力と歌唱力で台湾や中国の歌唱コンテストで審査員と観客の心をつかみ、マレーシアでも人気となった女性歌手である。

ただしのちにノル・ヒシャムは、自身の出生地は不明で、生後数カ月でムスリム(イスラム教徒)の華人に引き取られ、生みの親と世間で伝えられる人たちもまた育ての親であったと明かした。育ての家族が2つあるのかと問われたノル・ヒシャムは「育ての家族はたくさんある。マレー人、インド人、華人。みな私を大切にしてくれた」と答えている。ノル・ヒシャムは、自らの出自と育ちを特定の民族に固定させない語り方をしている。

民族的出自が異なる子どもを受け入れて育てることは、マレーシアでは珍しいことではない。大人になって生みの親を探す人たちも少なくなく、人探しの記事がたびたび新聞に掲載される。これらの記事では、生みの親と離別した痛みや悲しみが強調されがちで、そのことが生まれながらの民族性とは異なる民族性を備えて育ったことを痛みや悲しみとしてとらえるようなニュアンスをも生みがちとなる。

これに対してノル・ヒシャムは、自らの出自があいまいで、民族混成的に育てられたと肯定的に語る。そこには多文化混成的な家としてのマレーシアが肯定的に映し出されるところもまた、ノル・ヒシャムが国家英雄と呼ばれるゆえんなのであろう。

### < 筆者紹介 >

1972年、千葉県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修了。学術博士。在マレーシア日本国大使館専門調査員などを経て現職。専門はマレーシアの地域研究で、華人社会と民族間関係を研究している。著書に『プラナカンの誕生海峡植民地ペナンの華人と政治参加』(九州大学出版会、2017年)。